

令和7年3月14日

保護者 様

浦安市立浦安小学校
校長 臼井基之

令和6年度 浦安小学校「学校評価アンケート」の結果について

春分の候、保護者の皆様にはご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、過日ご協力いただきました学校評価のアンケートについて集計し、結果を取りまとめましたので、下記のとおりご報告いたします。

保護者の皆様からいただきました評価を真摯に受け止めるとともに、本校学校地域連携運営協議会における報告・協議をもとに、次年度の学校運営に生かしてまいります。

今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

記

1 調査・集計・評価等について

(1) 調査期間 令和6年11月25日(月)～12月9日(月)

(2) 回収率 児童 90.9%・保護者 62.4%

(3) 集計・評価のしかた

本校の「めざす子ども像」を含む下の5つの観点について、「そう思う」・「ややそう思う」・「あまりそう思わない」・「そう思わない」の4段階の中から一つを選ぶ4件法で実施した学校評価アンケートの結果を集計しました。「そう思う」及び「ややそう思う」を肯定的回答(肯定的評価)、「あまりそう思わない」及び「そう思わない」を否定的回答(否定的評価)としてとらえ、本年度重点的に取り組んだ項目を中心に取り上げ、主に児童・保護者の二者の比較から結果を評価し、取りまとめました。

<5つの観点>

- ・様々な立場の人と積極的にかかわる子、自他を認める温かい心をもつ子
- ・自ら課題をもち、学び合いを通して考えを広げ深める子
- ・自分を信じて挑戦する子
- ・あたり前のことがあたり前にできる子
- ・学校運営について(保護者のみ)
- ・その他(「学校が楽しい」「浦安小学校のたくさんの先生が、わたしに声をかけてくれたり、心配してくれたりしている」)

2 児童・保護者アンケートの結果について

2ページ～6ページ 参照

※ 同アンケートの単純集計の結果は、【別添1】(児童)・【別添2】(保護者)をご覧ください。

【児童・保護者アンケートの結果】

(1) 様々な立場の人と積極的にかかわる子、自他を認める温かい心をもつ子 について

- ① 「誰に対しても優しく接している」という児童・保護者は、共に昨年度とほぼ同程度の9割前後である一方で、両者の差が若干縮まる傾向。(児童調査項目4・保護者調査項目4)

【児童】	肯定的回答	86% (昨年度とほぼ同程度 (2ポイント増))	※「そう思う」+2 p
【保護者】	肯定的回答	92% (昨年度とほぼ同程度 (2ポイント減))	※「そう思う」-13 p

日常生活の中では、上学年児童が下学年児童に対して優しく接している姿が本年度もよく見られます。児童の肯定的な回答が昨年度とほぼ同程度の状況であると考えられます。

一方、保護者については、肯定的な評価は昨年度とほぼ同程度とみられますが、最も肯定的な「そう思う」は10ポイント以上低くなり、児童の行動場面による差異がうかがえます。

引き続き、機会あるごとに本校のめざす子ども像の「豊かなかかわり」「温かい心」を各諸活動のねらいの一つに位置付け、さらに意図的・継続的に取り組んでまいります。

- ② 「人が困っていたら、進んで助けている」という児童・保護者は、共に8割(5人に4人)以上の状況ではあるものの、両者に減少傾向がみられる。(児童調査項目5・保護者調査項目5)

【児童】	肯定的回答	84% (昨年度よりも3ポイント減)	※「そう思う」±0 p
【保護者】	肯定的回答	82% (昨年度よりも4ポイント減)	※「そう思う」-9 p

本項目の肯定的回答を前項①の状況と比べると、児童はほぼ同程度である一方で、保護者は10ポイント低く、さらに、最も肯定的な「そう思う」が昨年度より9ポイント低くなっています。

児童は、「やさしく接すること」と「困っていたら、進んで助けること」とを同程度の行動ととらえているのに対し、保護者は、後者を厳しく評価していることが考えられます。

本項目は、後述する「浦安っ子のあたりまえ」(「当たり前のことを当たり前でできる」こと)に設定している子ども像でもあるため、道徳科をはじめ日常の諸活動の中で、一層本姿勢を高められるよう取り組んでまいります。

- ③ 「地域の活動に進んで参加している」という児童は昨年度とほぼ同程度、保護者は高まる傾向がみられる。両者の差が縮まり、共に6割以上が肯定的評価。(児童調査項目11・保護者調査項目12)

【児童】	肯定的回答	62% (昨年度とほぼ同程度 (2ポイント増))	※「そう思う」-3 p
【保護者】	肯定的回答	64% (昨年度よりも6ポイント増)	※「そう思う」+1 p

保護者の肯定的評価が高まるとともに、児童の肯定的評価についても、学年が上がるにつれて下降する傾向が緩和され、児童・保護者共に6割以上になりました。ただ、最も肯定的な「そう思う」に着目すると、2学年以降は学年が上がるにつれて下降する傾向がみられました。

上記の結果は、学年が上がるごとに自己評価が厳しくなったり、通塾や習い事による環境的な要因であったり、あるいは、興味・関心等の違いであったりと複合的な背景が考えられます。

いわゆる「コロナ禍」で見合わせていた行事や活動が再開し始め、参加する機会が増えつつあるため、本校学校地域連携運営協議会の協力を得つつ、一層高められるよう取り組んでまいります。

(2) 自ら課題をもち、学び合いを通して考えを広げ深める子 について

- ① 「自分から疑問をもち、学習に取り組んでいる」という児童は8割弱に留まる一方で、保護者の評価は一層厳しくなり、肯定的な回答は6割未満に減少。(児童調査項目19・保護者調査項目19)

【児童】	肯定的回答	77% (昨年度と同程度 (増減なし))	※「そう思う」-1 p
【保護者】	肯定的回答	57% (昨年度よりも4ポイント減)	※「そう思う」-3 p

保護者の回答が児童よりも20ポイント低くなっています。家庭学習の場面では、当該状況を設定しにくく、主として基礎的・基本的な知識や技能の習得中心になっていることが考えられます。

宿題の内容として、主体的に学習に取り組む態度を高める課題の工夫や、毎時の授業においては、導入場面で児童の問題意識や目的意識を高められるような工夫に、一層取り組んでまいります。

- ② 「互いに助け合って取り組み、考えを広げたり、深めたりしている」という児童は、8割を下回る状況が続く。(児童調査項目 20)

【児 童】	肯定的回答 77% (昨年度とほぼ同程度 (1 ポイント減))	※「そう思う」－8 p
【保護者】	保護者調査の該当項目なし	

児童の肯定的な回答は、本項目と前項目①「自ら疑問をもち」の肯定的回答の割合 (77%) と同程度でした。「自分から疑問をもち、学習に取り組んでいる」児童の8割以上が、「互いに助け合って取り組み、考えを広げたり、深めたり」することも肯定的に回答している状況がみられます。

肯定的な回答の内訳として、「そう思う」は 33%・「ややそう思う」は 44%で、最も肯定的な「そう思う」は昨年度よりも8ポイント低くなり、全体の1/3 (3人に1人)にとどまることに課題が残ります。前項①の課題とともに、めざす子ども像の「学び合いを通して考えを広げ深める」ことができるよう、一層「学び合い」を充実させ、「協働的な学び」の改善に取り組んでまいります。

- ③ 「学級担任の先生以外の先生が教える授業を、わかりやすい」と思う児童は9割以上で、昨年度とほぼ同程度の状況。「一部の教科について、教科担任制で授業を行うことは、お子さんの学習に効果的だ」と思う保護者は100%に迫りつつも、積極的肯定は減少傾向。(保護者調査項目 20)。

【児 童】	肯定的回答 92% (昨年度と同程度 (増減なし))	※「そう思う」－2 p
【保護者】	肯定的回答 98% (昨年度と同程度 (増減なし))	※「そう思う」－7 p

一部教科担任制の実施により、児童一人一人の学習状況について多面的・多角的にとらえ助言や支援に生かすことなど、本年度も一定の成果がみられました。しかし、児童・保護者共に最も肯定的な「そう思う」は下降傾向となり、8%の児童、2%の保護者は否定的な回答であったため、一部教科担任制と併せて、個に応じた指導の一層の充実に取り組んでまいります。

- ④ 「学級をいくつかに分けて行う授業は、わかりやすい」と思う児童 (4年生以上) 及び「何人かの先生が教室に入っていく授業は、わかりやすい」と思う児童 (3年生以下) は、合算で9割弱の状況。保護者の肯定的な評価は100%に迫る状況。(児童調査項目 22・保護者調査項目 21)。

【児 童】	肯定的回答 合算で88% (昨年度よりも2ポイント減)	※「そう思う」＋4 p
【保護者】	肯定的回答 合算で99% (昨年度よりも1ポイント増)	※「そう思う」－1 p

昨年度に引き続き、1年生から3年生については複数教員による協力的な授業 (ティーム・ティーチング) を、4年生から6年生の算数の学習については、2学級を習熟の程度に応じた3つのグループに分けて授業を行ったことにより、本年度も、児童一人一人の学習状況が把握しやすく、質問したり、落ち着いて学習したりすることできたことなどが背景として考えられます。

しかし、児童の12%・保護者の1%は否定的な回答であったため、更に個に応じて助言や支援を行えるよう、前項目③と併せて、引き続き、指導方法の工夫改善に取り組んでまいります。

- ⑤ 「コンピュータやタブレットを使った学習を、わかりやすい」と思う児童は減少し、9割を割る状況。(児童調査項目 23)

【児 童】	肯定的回答 86% (昨年度よりも4ポイント減)	※「そう思う」－9 p
【保護者】	該当項目なし	

日々の授業において、コンピュータやタブレット端末を、学習のためのツールとして日常的に活用しています。調べ学習やプレゼンテーションソフトによる資料の作成、「ミライシード」での学習はもちろん、現在の教育活動にとって不可欠な要素となっています。

ただし、本年度は、図書室とパソコン室を統合した「メディアセンター」設置工事のため、パソコン室閉鎖による使用環境の変化が、肯定的回答の下降傾向につながったことが考えられます。否定的な回答をした児童14%へのよりよい支援方法の一つとしても、1月中旬から運用を始めた「メディアセンター」の機能を効果的に活用するなどしてICTの活用を一層推進し、児童や教職員の情報リテラシーを高めてまいります。

(3) **自分を信じて挑戦する子** について

- ① 「(自分を信じて) 様々なことに挑戦している」という児童は昨年度と同程度であり、8割弱が続く。保護者の評価は下降傾向で、児童以下の状況。(児童調査項目 6・保護者調査項目 6)

【児 童】	肯定的回答	78% (昨年度とほぼ同程度 (1 ポイント増))	※「そう思う」は+1 p
【保護者】	肯定的回答	75% (昨年度よりも5ポイント減)	※「そう思う」は-9 p

一昨年度、本項目の児童の肯定的回答は66% (3人に2人の割合) であったことから、昨年度、児童に対し、「めざす子ども像」の一つを縮減して表現した「自分を信じて挑戦」を機会あるごとにねらいの一つに位置付けて取り組み、児童の肯定的回答は77% (11 ポイント増) となりました。

本年度は、「さらに挑戦 (粘り強く)」を掲げ、機会あるごとに児童に働きかけて取り組んできましたが、昨年度とほぼ同程度で現状維持となりました。保護者の肯定的評価は、児童よりも厳しい評価となっています。ただし、両者の評価の差は縮まり、同程度になりました。

なお、「粘り強さ」(児童調査項目 7・保護者調査項目 7) に係る児童の肯定的回答は 81% (4 ポイント減) で、「挑戦」よりも「粘り強さ」の方が若干高くなっています。児童は、同状況を「努力している」と自認し「よいところがある」の高まりにつながっているものと推察します。

来年度も引き続き、児童が自己有用感や自己肯定感を高める評価の工夫とともに、更に自信をもって挑戦・活動できるよう支援してまいります。

(4) **あたり前のことがあたり前にできる子 (「浦安っ子のあたりまえ」)** について

- ① 「浦安っ子のあたりまえ」に係る5項目については、昨年度と比較すると、「時間を守って行動」の児童の評価は更に下降し、「誰に対しても、自分から進んで挨拶」は児童の評価が高まったものの、保護者の評価は更に厳しくなる傾向。「人が困っていたら、進んで助けている」が児童・保護者共に下降傾向がみられる。(児童調査項目 3・5・8・9・10、保護者調査項目 3・5・8・10・11)

ア 「誰に対しても、自分から進んで挨拶 (あいさつ) している」か			
【児 童】	肯定的回答	81% (昨年度よりも6ポイント増)	※「そう思う」+7 p
【保護者】	肯定的回答	67% (昨年度とほぼ同程度 (2ポイント減))	※「そう思う」-6 p
イ 「時間を守って行動している」か			
【児 童】	肯定的回答	76% (昨年度よりも4ポイント減)	※「そう思う」+2 p
【保護者】	肯定的回答	73% (昨年度よりも3ポイント増)	※「そう思う」+3 p
ウ 「先生や友達の話をよく聞いている」か			
【児 童】	肯定的回答	87% (昨年度と同程度 (増減なし))	※「そう思う」-4 p
【保護者】	肯定的回答	82% (昨年度とほぼ同程度 (2ポイント減))	※「そう思う」-2 p
エ 「人が困っていたら、進んで助けている」か			
【児 童】	肯定的回答	84% (昨年度よりも3ポイント減)	※「そう思う」±0 p
【保護者】	肯定的回答	82% (昨年度よりも4ポイント減)	※「そう思う」-9 p
オ 「一生懸命に掃除 (保護者調査項目は「整理整頓」) している」か			
【児 童】	肯定的回答	92% (昨年度とほぼ同程度 (1ポイント減))	※「そう思う」-6 p
【保護者】	肯定的回答	43% (昨年度とほぼ同程度 (1ポイント減))	※「そう思う」+1 p

特に、児童の肯定的回答の下位2項目のうち、「誰に対しても、自分から進んで挨拶」については、保護者の評価も厳しく、昨年度とほぼ同程度の67%にとどまりました。児童と保護者の肯定的な回答に14ポイントの差があることから、児童の挨拶の状況に、場面による差異があることが考えられます。

また、毎朝の児童昇降口では、主体的に丁寧または元気に挨拶をする児童がいる反面、こちらから挨拶をしてもそのまま通り過ぎる児童がまだまだ見られる点は今後の課題です。

「浦安っ子のあたりまえ」の中に掲げている「気持ちのよいあいさつ」については、「めざす子ども像」の「豊かなかかわり」「温かい心」につながる大切なコミュニケーションの第一歩となるものです。今後も引き続き取り組んでまいります。

(5) **学校運営（保護者のみ調査・4項目）** について

- ① 「安全・安心」で「開かれ」「信頼される」学校、「(浦安) 中学区の園小中の連携」に係る4項目では、昨年度に比べ、特に「開かれた学校」に改善傾向がみられる。(保護者調査項目 27・28・29・30)

ア 「学校は、いじめや事故のない、安全で安心な学校づくりに努めている」か
【保護者】 肯定的回答 89% (昨年度と同程度 (1ポイント減)) ※「そう思う」±0 p
イ 「学校の教職員は、保護者からの問合せや相談事に誠実に対応している」か
【保護者】 肯定的回答 95% (昨年度と同程度 (増減なし)) ※「そう思う」+3 p
ウ 「学校は、学年だよりや学校だより、ホームページ等で情報をわかりやすく伝えている」か
【保護者】 肯定的回答 92% (昨年度よりも5ポイント増) ※「そう思う」+13 p
エ 「学校は、中学校区のこども園・保育園、小学校、中学校と連携して諸活動を進めている」か
【保護者】 肯定的回答 88% (昨年度とほぼ同程度 (1ポイント減)) ※「そう思う」+5 p

特に、「情報をわかりやすく伝えている」ことについては、一昨年度に比べ昨年度は4ポイント低い状況でしたが、本年度は昨年度に比べ5ポイント高くなるとともに、最も肯定的な「そう思う」が13ポイント高くなりました。教務主任を中心に、ホームページや「キッズビュー」により、情報発信に努めた成果と考えられます。

今後は、下位2項目についての一層の向上に努めることとともに、上位2項目についても否定的回答をされた保護者が本年度もあったことを真摯に受け止め、各教育活動の一層の改善・推進・充実について、学校と保護者・地域が更に連携して協働的に取り組めるよう、本校学校地域連携運営協議会の機能を生かし、安全・安心で魅力ある学校づくりに一層取り組んでまいります。

(6) その他

- ① 「学校に行くことが楽しい」と思う児童は一昨年度よりも低い状況が続き、8割強程度（児童調査項目17）に、「お子さんは、楽しく学校に通っている」という保護者は9割以上であるものの下降傾向がみられる。(保護者調査項目17)

【児童】 肯定的回答 84% (昨年度とほぼ同程度 (2ポイント増)) ※「そう思う」+2 p
【保護者】 肯定的回答 91% (昨年度よりも4ポイント減) ※「そう思う」-2 p

本項目について、子どもたちが楽しく学校に通えるということは、本校の教育活動を進める前提として欠かせない要素の一つです。

しかし、児童の2割弱が否定的な回答をしています。この背景として、次項②とともに、「先生は、わたしのよいところを認めてくれていると思う」（児童調査項目14）についての否定的回答が2割弱、「困ったときや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」（児童調査項目16）の同回答が34%（3人に1人の割合）であること等がその背景として考えられます。

また、保護者の評価については、最も肯定的な「そう思う」が、順に、5、12、0ポイント増になりつつも、同項目の否定的回答については、順に、10、5、15%であり、昨年度と比較し、0～5ポイント増になる傾向がみられます。

そのため、(2)のとおり、個に応じた指導とともに相談体制を一層推進・充実するため、指導・支援の体制や方法を更に工夫改善してまいります。

- ②「浦安小学校のたくさんの先生（教職員）が、わたし（お子さん）に声をかけてくれたり、心配してくれたりして（見守って）いる」と思う児童は一昨年度よりも下降傾向が続き、8割程度（児童調査項目 15）、保護者は昨年度とほぼ同程度の9割、「そう思う」は若干高まる。
（（ ）内は保護者調査項目 15）

【児 童】	肯定的回答	81%（昨年度とほぼ同程度（2ポイント減））	※「そう思う」－3 p
【保護者】	肯定的回答	90%（昨年度とほぼ同程度（2ポイント減））	※「そう思う」＋5 p

本年度は、昨年度の調査結果と比べると、児童・保護者ともに同程度以下（2ポイント減）となりました。最も肯定的な「そう思う」については、昨年度に比べ、児童が3ポイント低く、保護者が5ポイント高い背景として、児童に対する教職員の姿勢は「見守る」、保護者に対しては「心配」して伝えるという傾向が、若干高まったことが考えられます。

併せて、前項①で述べたとおり、「困ったときや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」（児童調査項目 16）の肯定的回答が34%（3人に1人の割合、昨年度に比べ4ポイント減）、保護者の同回答が85%（昨年度よりも5ポイント減）となりました。

そのため、教職員は、「見守る」という姿勢から、より積極的に「声をかける」ようにし、児童が「先生、あのね…」と、「相談」のための言葉を発しやすくなるようにしてまいります。

引き続き、「浦小の子ども、浦小の先生」を合言葉に、全教職員で児童一人一人の支援に取り組み、一層安全・安心な学校づくり、学校運営に努めます。